

令和2年度 東京都立調布南高等学校 学校経営計画

校 長 小宮 徳健

I 目指す学校像

1 校訓 「 至誠 創造 力行 」

2 目指す学校像

本校は、教育目標に「1 明朗にして、心豊かな人間を育てる。2 知性ある、創造力豊かな人間を育てる。3 自主性のある、個性豊かな人間を育てる。」を掲げている。開校以来40年を迎え、これまでの校風や伝統を継承し、社会の中で活躍できる人間を育て、以下の5項目を柱とし、生徒一人一人の自己実現を果たし、社会の中で活躍できる人間を育てる学校を目指す。

- (1) AI時代に対応できる学力を身に付け、国公立大学や難関私立大学など高い目標に向かって進路希望を実現することができる。
- (2) 自ら進んで考え行動し、思考力、判断力、表現力、学習意欲と想像力、発想力を向上させることができる。
- (3) グローバルな視点から、思いやりをもって互いに人権を尊重し、豊かな心と社会性を身に付けることができる。
- (4) 勉強も行事、部活動も全力を尽くし、健康でたくましい生徒を育成することができる。
- (5) 調南でみがき、調南生としての帰属意識や誇りをもつことができる。

II 中期目標と方策

本校は、これまで、「重点支援」や「部活動推進指定校」、「進学指導研究校」の指定を受け、学習指導の改善と進学指導の充実、部活動の活性化を進めてきた。これまでの取組を踏まえ、中堅進学校として、学習や特別活動、部活動などに全力を尽くし、自らの進路希望の実現を目指す。

そして、変化の激しい社会の中で、社会の一員としてたくましく生きることができるよう、次の方策を中期的な展望として具体的に取り組んでいく。

- 1 次期学習指導要領の改訂に向け、主体的・対話的で深い学びによる学習指導の実践指導等、指導方法を研究し、授業力を高める。【学習指導】
- 2 入試や模試、定期考査等の組織的な分析や学力スタンダードなどの策定により、カリキュラムマネジメントを推進し、教科ごとの研究などにより授業改善を進める。【学習指導】
- 3 土曜授業や習熟度別授業、長期休業日の講習・補講などを実施し、生徒が意欲的に取り組める授業を展開して、目標や希望に応じた進路実現を目指す。【学習指導・進路指導】
- 4 3年間の見通しをもった組織的、系統的なキャリア教育の充実を図り、個に応じた進路指導を実践する。【進路指導】
- 5 進路情報や指導内容の共有化による進路体制の構築と三者面談や保護者会、保護者対象の進路講和、保護者への情報の発信等、家庭と一体となった進路指導を進める。【進路指導】
- 6 挨拶の励行や遅刻指導、身だしなみ指導、情報モラルなど共通化した指導内容によりマナーやルールの遵守の徹底を図り、自他の人権意識を高め、社会規範意識を育てる。【生活指導】
- 7 学習と特別活動、部活動等、集中と切り替えによりメリハリを付けた生活習慣を身に付けさせる。【学習指導、特別活動、部活動】
- 8 学校行事や委員活動、部活動への加入を奨励し、組織的な支援体制により成功体験を積み、主体性や協調性を高める。【特別活動、部活動】
- 9 学校保健計画の策定により、保健委員会を中心に、教科、分掌、学年で共通理解を進め、心の健康や体力の向上を図る。【健康づくり】

- 1 0 関係機関や特別支援学校等と連携を図り、個に応じた特別支援教育の充実を進める。

【特別支援教育】

- 1 1 ホームページの内容や更新の充実を図り、体験部活動、外部の学校説明会への参加、中学校への出前授業や説明会などを計画的に進め、組織的な募集対策を展開する。【募集、広報】
- 1 2 生徒会や部活動等の地域行事への参加や小、中学校、特別支援学校等との交流などを進め、地域に根付いた活動を推進する。【地域交流】
- 1 3 働き方改革による効率的な分掌、委員会等の運営を推進し、組織体制、会議のスリム化等による業務縮減や学校評価を活かした効果的な組織運営により、学校運営の改善を図る。【学校経営】
- 1 4 経営計画や予算編成指針に基づいた予算編成、学事、施設管理、学習環境の整備、募集対策など経営企画室の学校経営参画を推進する。【学校経営】

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 「学習指導」 高い目標を目指すことができる教科指導の推進

- (1) 学力スタンダードと年間指導計画を策定し、定期考査や模擬試験の分析、家庭学習時間調査などによる学習状況の把握など、カリキュラムマネジメントによる授業改善を進め、指導方法や授業内容の充実を図る。
- (2) 各教科課題や復習・予習の励行、小テストの実施など意図的・計画的に実践し、自主的に学習に取り組める習慣を身に付ける。
- (3) 土曜授業や数学、英語での習熟度別授業を展開し、生徒一人一人が高い目標に挑戦できる学力の向上を図る。
- (4) 次期学習指導要領の改訂に向け、総合的な探求の時間を主とした課題研究や主体的・対話的で深い学びの実践、ICT機器を活用した授業方法などを研究するとともに、編成・実施に向けた取組を推進する。

2 「進路指導」 「チーム調南」による組織的、系統的な進路指導

- (1) 進路希望の実現に向け、情報を共有するなどして組織的な指導と、「進路ノート」や進路通信「M-P R I D E」などを活用した系統的な進路計画に基づいた指導を推進する。
- (2) 適切な進路選択に向けて、大学教員や学生、企業等の講師による進路講話を実施し、キャリア教育の充実を図る。
- (3) 進路希望調査などから進路適性を的確に判断するとともに、年間5回程度の模擬試験の実施と分析に基づいた指導を実践し、個に応じた指導を励行する。
- (4) 進路指導部が主体となり、長期休業期間中の進路対策や基礎学力の定着を図る講習・補習を組織的・計画的に実施する。
- (5) 保護者会や保護者向け進路説明会や講話、三者面談などの実施により、保護者との情報の共有化を図り、家庭との連携を深めた指導を推進する。

3 「生活指導」 基本的生活習慣の確立と社会規範の育成

- (1) 生活指導指針に基づき指導内容の共通化を図り、授業や集会等あらゆる場面で時間を意識した行動の徹底、身だしなみなど統一した内容や方法で年間を通して計画的・組織的に指導する。
- (2) 家庭とも連携して、人権尊重の観点から適切に情報通信機器使用するための情報モラルの育成を図る。
- (3) 朝の校門での挨拶指導をはじめ、日常での挨拶を励行し、お互いに思いやる態度を育てる。
- (4) 具体的な物品管理方法を示し、貴重品も含めて、自己管理能力を高める。
- (5) 日常の生徒観察、分掌部会、学年会などを通していじめなどに関する情報の共有化を図るとともに、アンケートを活用し早期発見に努める。

いじめ等が発生した場合は、学校いじめ対策委員会など、組織として迅速に対応し、解決を図る。

- (6) 連休前後や長期休業日前後などを重点とし、日常生活の中で生活指導部、学校保健委員会と学年で生徒情報を共有し、スクールカウンセラーや外部機関なども活用して、自殺防止の徹底を図る。

4 「特別活動・部活動」 社会性を育む特別活動の推進

- (1) 生徒の意欲的な取組を支援し、体育祭、文化祭、などの学校行事や修学旅行等の学年行事、生徒会活動、委員会活動などを通して主体性、協調性等を育み、学校生活の満足度を高める。
- (2) 100%の入部を目指して、部活動の加入を奨励し、指導体制を整え、運動部活動指針や文化部活動指針に基づき、運動部文化部ともに活性化を進める。
- (3) 部活動保護者会等を通して、保護者との連携を図り、生徒一人一人が高い目標に向けて取り組めるようにする。
- (4) 講話などによりオリンピック・パラリンピックに関することを計画的、組織的に実施し、国際感覚や人権感覚を養う取組として継承できるようにする。

5 「体力向上と健康づくり」 環境整備と健康・安全教育

- (1) オリンピック・パラリンピック東京大会の開催に向けて、授業や特別活動、部活動等、レガシーを活かすなど生涯に渡りスポーツに親しむ態度を育てるとともに体力テストの結果を活用した、体力向上に向けた取組を推進する。
- (2) 外部機関とも連携し、避難訓練や宿泊防災訓練等により、実践的な自助・共助の精神を培い、防災に関する実践力を高める。
- (3) 健康に関する講話や交通安全教室などの実施により、主体的に健康・安全に留意した習慣を身に付け、社会生活の中での実践を促す。
- (4) リサイクルの徹底やゴミの分別、持ち帰りなど学校生活における環境を整理・整頓し、校内美化の徹底を進める。

6 「広報・募集活動」 組織的な広報活動

- (1) 学校ホームページの内容を充実させ、行事や部活動等の内容について、リアルタイムで発信する。
- (2) 体験授業や学校見学会、体験部活動等を計画的に開催し、本校についての理解を深める活動を推進する。
- (3) 区や市等の主催による外部の説明会、中学校へ出張説明、学習塾訪問などを計画的に実施し、文化祭や学校説明会など来校者を増やす取組を充実させる。

7 「地域連携」 地域に根付いた活動

- (1) 出前授業や部活動、生徒会など、地域の小・中学校、特別支援学校等への学習や行事、地域のイベントなどへの参加を進める。
- (2) 公開講座等の実施により地域との交流を深める。

8 「学校経営・組織体制」 組織としての課題対応

- (1) 各分掌、学年の課題を整理し、企画調整会議の機能を活性化させ課題解決に取り組む。
- (2) 体罰に頼らない指導や個人情報の保護、流失防止など、分掌や学年、教科が組織的に対応して、服務事故の未然防止を徹底する。
- (3) 校務や委員会等組織の見直しを進め、会議の効率化などを図り、業務縮減に向けた取組や面接等を通して、勤務状況を確認するとともに、有給休暇等の取得などを進め、メリハリをつけた働き方を推進する。
- (4) 教員と経営企画室との連携を強化し、課題解決に向けた自律経営予算や学校徴収金の適正な執行、施設の管理や整備、学事、募集対策など、効果的・効率的な経営参画を図る。
- (5) 関係機関や近隣の小・中学校、特別支援学校との情報の共有化など連携を深め、組織的な特別支援教育を推進する。

Ⅳ 重点目標と方策

- 学校評価 生徒の満足度
 - 「学習指導」 70% 「特別活動」 85%
- 学校評価 保護者の満足度
 - 「学習指導」 80% 「学校行事」 85%
- 進路決定率 85%以上
 - 国公立大学及び難関私立大学合格者 15人
 - GMARCH合格者 55人
- 家庭学習時間
 - 1、2学年 90分以上
 - 3学年 120分以上
- 長期休業中の講習・補習講座数 80講座
 - 受講延べ人数 2,500人
- 学校見学会来校者 延べ 2,300人以上
- 学校説明会来校者 延べ 1,500人以上
- 部活動加入率 95%以上
- 都大会、コンクールでベスト16相当以上 5部
- ホームページの更新回数 300回以上
- 外部での募集に向けた広報活動、説明会 10回以上
- 学習塾等の訪問 100校以上